

3.3 地形判読調査

撓曲帯の想定されている地域には多摩Ⅱ面および下末吉面と呼ばれる地形面が分布している。これらの地形面は平坦な堆積面を有する海成段丘堆積物の堆積面にあたる。

撓曲による堆積面の変形を確認するため、地形判読調査を行った。

(1) 調査方法

調査範囲を図 3.3.1 に示す。

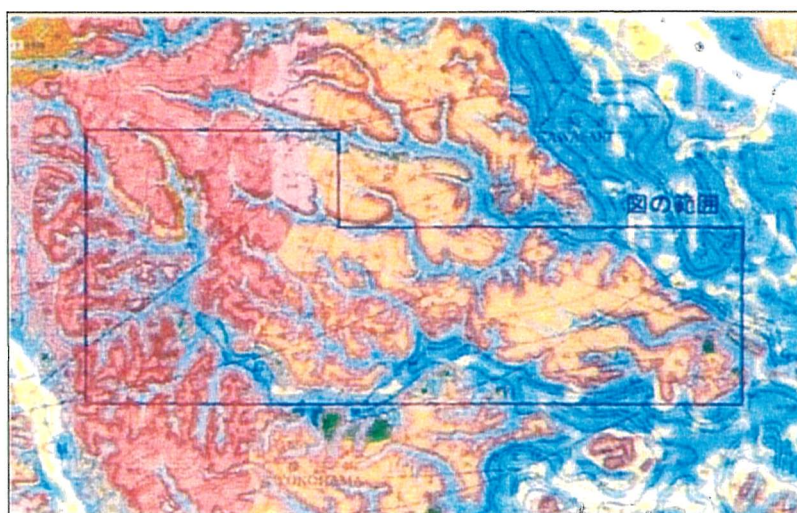


図 3.3.1 調査範囲 (1/50,000 地質図幅「東京西南部」より引用加筆)

調査は以下に示す手順で実施した。

- ① 調査地域には多摩Ⅱ面および下末吉面と呼ばれている地形面が広く分布しているが、ほとんどの箇所は宅地等の開発のため改変されてしまっている。そこで、横浜市北部地域の空中写真を利用して残存している地形面を抽出した。
- ② 抽出した地形面は横浜市の 1/2,500 地形図に記載した。
- ③ 地形面の標高を地形図より読み取り、図 3.3.2 に示すような標高ごとに設定した色で地形面の箇所を塗色した。
- ④ 地形面の標高に基づいて 2 m ごとの等高線を設定し、地形面判読図を作成した。

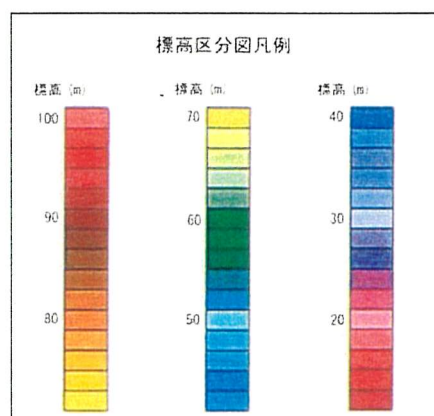


図 3.3.2 標高区分凡例

(2) 調査結果

○地形面判読図

横浜市の 1/2500 地形図をもとにした地形面判読を行い、地形面判読図を作成した。図 3.3.3 に地形面判読図を示す。

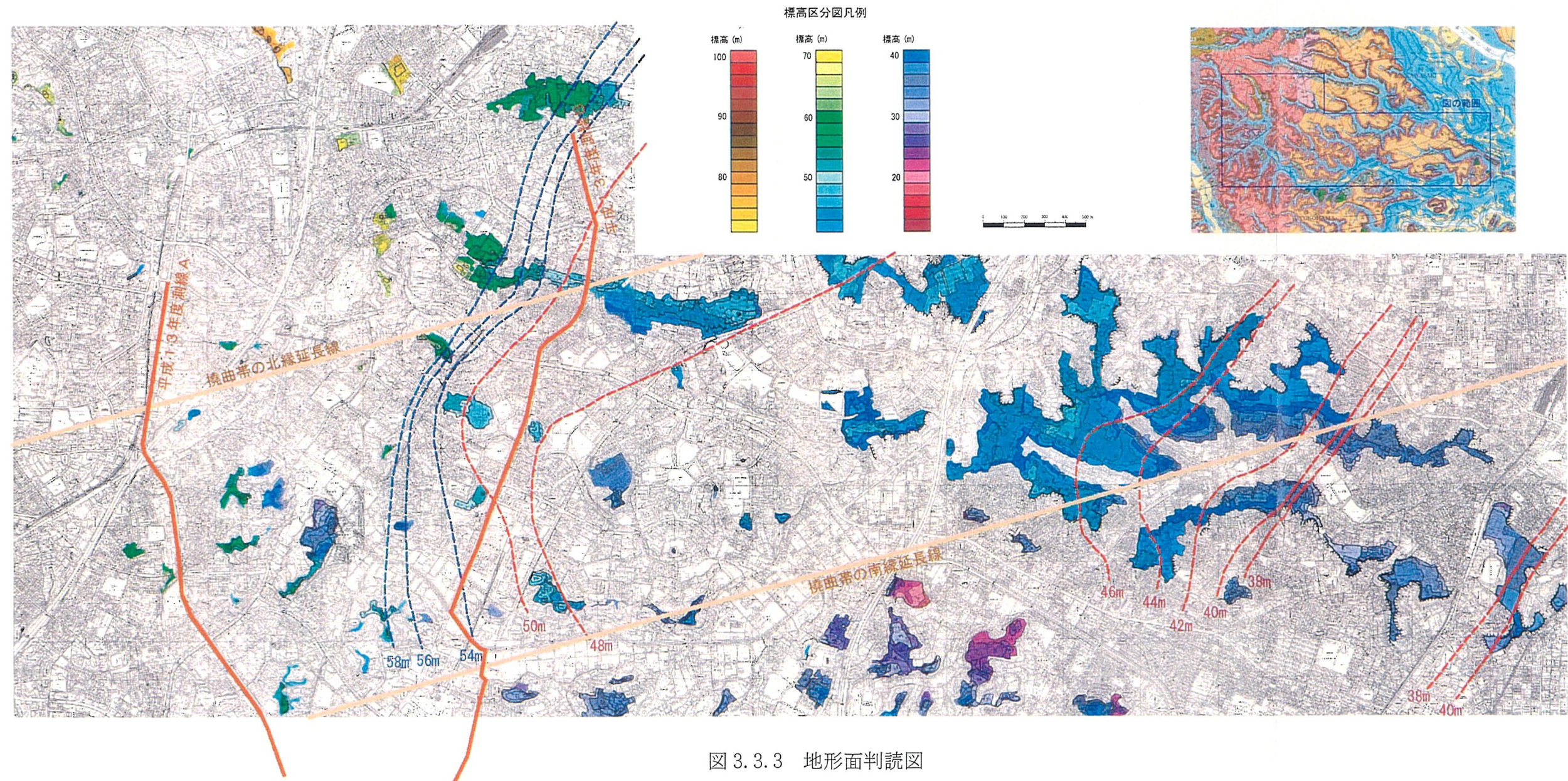


図 3.3.3 地形面判読図

○判読結果

判読結果をまとめると以下のとおりである。

(1) 下末吉面 (図 3.3.3 で主に青系統)

- ①下末吉面は調査地北西部で高く、南西に向かって傾斜している。
- ②撓曲帯に相当すると思われる部分で等高線の幅が広く傾斜が極端に緩くなっている。
- ③下末吉面の西方は、平成 13 年度反射方探査測線 B 付近まで確認できる。

(2) 多摩面Ⅱ面 (図 3.3.3 で主に黄緑～黄色系統)

多摩丘陵については、地形の開削や人工改変が進んでおり地形図では地形面の判別が容易でない。この部分については横浜市から貸与された米軍撮影空中写真 1/40000 の他に、米軍撮影空中写真 1/10000 を用いて、残存する地形面を探しながら判読したが、わずかな撓曲の影響を判断できるほどの情報を得ることはできなかった。